

東京電力HD 柏崎刈羽原子力発電所
 成立性確認訓練(シーケンス訓練・大規模損壊訓練)に関する確認事項回答について

2020年10月19日
 東京電力HD(株)

規制庁からの確認事項	東電回答
(1) 2021/1/16、17でSA、1/24で大規模訓練を設定しているが平日に実施することは可能か。	<p>平日でも可能ですが、当社として土日の方がメリットがあると考え現状土日に設定しようと考えております。</p> <p>土日で訓練する場合のメリット:核物質防護上の観点で有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特重設以外の工事及び作業等も制限するため、PPゲートを開放して車両の出入りを簡素化(実際の発災時をイメージ)し、訓練できること。 ・自治体やマスコミなどへ公開する場合を考慮すると、他作業との干渉も無くなること。
(2) 訓練に使用する現場付近において、特重工事が実施されることが予想されるが各訓練に支障が出ないか。	<p>特重設工事及びその他近傍での工事に関しては、訓練実施日が決まり次第、作業調整予定であるため、訓練には支障ありません。(訓練場所の確保を優先)</p>
(3) 訓練実施後、燃料装荷が始まると保安規定が施行される。工事が輻輳する状態で保安規定に定める事項(アクセスルート等の確保)を履行することが可能か。	<p>保安規定に定める事項を履行することは可能です。</p> <p>保安規定施行後はアクセスルートへの工事干渉が無いよう、アクセスルート2ルートを確実に確保できるよう工事計画をたてています。</p>
(4) 工事の関係で土日に訓練を予定しているが、厳しい条件(高線量下、夜間、荒天、構内所員の避難)下での訓練を規制要求に対し、土日に予定することをどう評価したのか。	<p>シーケンス訓練及び大規模損壊訓練においては、土日祝祭日での発災を想定した訓練です。故に24時間宿直体制となる第1陣、第2陣という少人数での対応は厳しい条件下での訓練となるため、訓練を実際の土日に計画としたいと考えています。</p> <p>また、シーケンス訓練は炉心損傷シナリオでもあり、放射線防護装備を着用したうえで活動すること、更には1月ということで厳冬期にもなることから厳しい条件になります。</p>